

【温暖化対策の推進】

4. ストップ温暖化プロジェクト

4-1 かさまの森林(もり)推進

〈ねらい〉・本市に所在する森林を対象に、市民・事業者と協働により植林や間伐等の森林整備を行うことで、森林の伐採と再生のサイクルを促進し、二酸化炭素吸収量の多い森林を形成します。

- ・森林整備を通して環境教育・自然体験を行い、市の自然環境に対する保全意識の醸成を図ります。

〈実施事業〉 かさまの森林（もり）を元気にしよう！

取組指標	現状(H27)	中期(R2)	長期(R7)	令和5年度
森林・里山保全活動への参加人数	1,045人	822人	1,050人	867人

取組指標	現状(R4)	長期(R7)	令和5年度
森林整備面積	3.5ha(計画)	10.0ha	5.1ha

実施内容

- ・市民や事業者に対し、森林吸収源としての機能をはじめ、水源かん養機能や国土保全機能など多様な公益的機能を担う森林の重要性について周知を図り、地場産材の積極的な利用や里山保全活動に積極的に参加・協力するよう呼びかけます。また、里山づくりや森づくりを推進します。
- ・森林環境譲与税を活用し、森林整備（伐採・植林）を行います。

●カスミ共感創造の森植樹祭 292人

5月20日（土）愛宕山で、(株)カスミ主催によるカスミ共感創造の森植樹祭が行われました。この活動は、地球環境保全活動の一環として実施され、10回目の実施となりました。

植樹祭には市民、関係者など292人が参加しました。

●緑の少年団活動（市内5団体）575人

団体活動を支援し、森林・林業体験キャンプ、里山体験学習及び花壇づくり等を行いました。

（稲田小学校わがくに緑の少年団175人、友部緑の少年団25人、北川根小学校緑化委員会247人、岩間第一小学校あたご緑の少年団102人、笠間緑の少年団26人）

●森林環境譲与税を活用し、山林の下草刈りや間伐等を実施しました。

実施面積：1.3ha

<評価・課題>

森林資源の活用促進として、緑の少年団活動等を支援し、森林の有する公益的機能の理解促進と自然環境保護に対する意識の高揚を図りました。

森林所有者の経営意欲の低下や担い手不足、相続による世代交代などから、所有者不明の山林が多く存在しており、適正な維持管理がなされていないことが課題となっているため、林地台帳制度の周知を強化し、台帳整備に努め、問題解決を図ります。

また、里山再生に取り組む新たな市民団体と意見交換を行い、事業の協働や支援の方法を検討します。

第1章の関連する施策：森林の育成・活用(P3)

4-2 環境にやさしい交通推進

〈ねらい〉 交通利用の在り方を再確認し、公共交通利用や徒歩、自転車による移動がしやすい環境を整備することで、環境負荷の少ない交通利用を推進し、市内における運輸・移動による二酸化炭素や大気汚染物質排出量の削減を図ります。

〈実施事業〉 公共交通や自転車を活用しよう！

取組指標	現状(H29)	中期(R2)	長期(R7)	令和5年度
エコ通勤チャレンジ 実施回数	2回	1回	2回	2回

取組指標	当初(R3)	長期(R5)	令和5年度
市道における自転車空間整備延長	7.8Km	31.0Km	25.7Km

実施内容

- ・過剰なマイカー利用がもたらす温室効果ガス排出量の増加による地球温暖化問題について、エコ通勤チャレンジウィークを実施し、通勤・通学・買物等でのマイカー利用を控え、公共交通や自転車を利用することによる効果をホームページやSNSで伝え、マイカー利用者の意識醸成を図ります。
- ・笠間市自転車活用推進計画に位置付けられた路線において、安全で快適に利用できる自転車通行空間を作るためにピクトグラムなどの路面標示を整備し、市県道のネットワーク路線の実現を目指します。

●エコ通勤チャレンジウィーク

- ・6月1日(木)～6月7日(水)
参加者延べ人数 4,361人
うち実施延べ人数 709人
- ・12月20日(水)～12月26日(火)
参加者延べ人数 4,016人
うち実施延べ人数 690人

●市道における自転車空間の整備

- ・市道(笠)0111号線、延長900mの区間において、路面表示(矢羽根22カ所、ピクトグラム2カ所)を設置しました。
- ・市道(友)1級15号線他、延長2,030mの区間において、路面標示(矢羽根38カ所、ピクトグラム18カ所)を設置しました。
- ・市道(笠)0234号線他、延長1,240mの区間において、路面標示(矢羽根41カ所、ピクトグラム12カ所)を設置しました。
- ・市道(岩)I級15号線他に、案内看板9基を設置しました。

<評価・課題>

エコ通勤チャレンジウィーク期間中、エコ通勤を実践できたのは参加者の10%程度の結果となりました。公共交通や自転車での通勤が困難なマイカー通勤者にはできることから実践するよう促進していきます。

自転車空間の整備については、路面標示は令和5年度に延長4,170mの区間において実施し、その他路線においても案内看板の設置による利便性の向上も行いました。

今後も自転車による移動がしやすい空間の整備に取り組めます。

第1章の関連する施策:スマートムーブ(自動車利用の抑制)(P28)、広域連携による取組の推進(P34)

4-3 市民の主体的な温暖化対策促進

〈ねらい〉 省エネの取組や電力消費量の「見える化」など、家庭において日常生活のなかで実践できる地球温暖化対策について紹介するとともに、参加型の取組みを実践し、活動の促進を図ります。

〈実施事業〉 CO₂削減エコライフチャレンジに参加しよう！

取組指標	現状(H29)	中期(R2)	長期(R7)	令和5年度
エコチャレンジ 市内参加人数	354人	603人	700人	536人

実施内容

家庭での節電により、どれだけ二酸化炭素(CO₂)を減らすことができるかを競う取組を県央地域9市町村で同時に実施します。

- 家庭における電気の使用量の削減に努めるため、令和4年11月の家庭の電気使用量と令和5年同月とを比較し、昨年度比で電気量を削減する取組みを意識的に行うため実施しました。

取組期間：10月から11月の2か月間

〈評価・課題〉

節電など、できることから始めることが、地球温暖化防止に繋がることから、学校などを通じて、各家庭の参加を促していますが、市民の参加者が少なく、更なる周知が必要となります。

気軽にできる地球温暖化防止対策の一つとして、節電に取り組む家庭が増加するよう促進していきます。

第1章の関連する施策：家庭や学校における地球温暖化対策の普及促進(P28)、広域連携による取組の推進(P34)

4-4 再生可能エネルギー活用の推進

〈ねらい〉 二酸化炭素を排出しない再生可能エネルギーを活用した太陽光発電や、発電した電気を貯めることができる蓄電池の設置により、電気の自家消費を行い、発電にかかる二酸化炭素排出量の削減を図り、もって地球温暖化防止に寄与し、2050年カーボンニュートラルの実現を目指します。

〈実施事業〉 太陽光発電システム・蓄電池を設置しよう！

取組指標	現状(R4)	長期(R7)	令和5年度
市補助による住宅用太陽光発電システム設置容量	460kW	460kW	367.6kW

(※)4.6kW(1件当たりの平均出力)×100件=460kW

実施内容

太陽光発電システム（最大出力合計値が10kW未満かつ未使用のもの）及び、蓄電システム設置費用を補助します。

●住宅用太陽光発電システム及び蓄電設備システム設置費を補助しました。

1) 太陽光発電システム蓄電システム

交付件数：47件

設置容量計：367.6kW

2) 蓄電システムのみ

交付件数：31件

●事業者用太陽光発電・蓄電システムの設置費用の補助

本事業は令和6年3月25日から申請を受け付けた事業であり、令和5年度中の実績はありませんでした。

〈評価・課題〉

住宅用太陽光発電及び蓄電設備システムの補助金交付件数及び設置容量は前年度よりも増加しており、再生可能エネルギーの活用が浸透していると考えられます。

事業者用太陽光発電・蓄電システムの設置費用の補助については、予算額の全額を令和6年度に繰り越しを行い、引き続き市内事業所における再生可能エネルギーの導入促進を図ります。

第1章の関連する施策:事業者に対する地球温暖化対策の普及活動(P28)、省エネルギー促進のための意識啓発・情報提供(P30)

4-5 環境に配慮した移動手段の促進

〈ねらい〉・移動手段として、シェアサイクル（電動アシスト自転車）を活用し、自動車利用を控えることによって、二酸化炭素排出量を削減できることを、市民及び事業者にPRします。

・電動車を市役所本所及び各支所に配置し、利用することによって、二酸化炭素排出量を削減できることを、市民及び事業者にPRします。

〈実施事業〉電動アシスト自転車や電動車を利用しよう！

取組指標	現状(R2)	長期(R7)	令和5年度
レンタサイクル・シェアサイクル利用台数	延べ1,548台	延べ2,000台	延べ3,081件

取組指標	当初(R4)	長期(R7)	令和5年度
電動車の導入	8.1%	15.0%	9.0%

実施内容

- ・来訪者に対して、二酸化炭素排出量の削減を目指したレンタサイクルやシェアサイクルなどの活用を推進します。
- ・市役所職員の市内への外出時は、公用車の利用を極力控え、シェアサイクル（電動アシスト自転車）や電動車を利用します。また、公用車の更新については、代替可能な電動車がない場合を除き、電気自動車やハイブリッド車を購入します。

●レンタサイクルの利用台数

延べ利用台数 1,546台

●シェアサイクルの利用

実証実験も含め市内の公共拠点8ヶ所（友部駅、道の駅かさま、笠間駅、笠間工芸の丘、かさま歴史交流館井筒屋、稲田駅、福原駅、ムラサキパークかさま）にサイクルポートを設置し、自動車利用の抑制を促しました。

●電動車の導入

電気自動車を3台購入し、年代の古い車輛や走行距離の多い車輛5台を廃車しました。

<評価・課題>

シェアサイクルは、鉄道駅や観光拠点からの発着を中心に利用されており、市内周遊への活用が図られています。今後も運営状況を見ながらサイクルポートの増設や自転車の増車を検討し、利用促進を進めていきます。

電動車の導入は、今後も年代の古い車輛や走行距離の多い車輛を基本に、進めていきます。

第1章の関連する施策:地球温暖化防止に向けた率先的な取組み (P27)、スマートムーブ (自動車利用の抑制) (P28)

【環境教育・学習・活動の促進】

5. 環境学習・環境保全活動促進プロジェクト

5-1 主体的な環境教育促進

〈ねらい〉 子ども達が自ら環境保全に関する課題を発見し、対策を検討し、自ら取り組みを行う主体的な環境教育の実施を通して、身近な環境に関心をもち問題意識を持つとともに主体性を養います。

〈実施事業〉 涸沼川・巴川を探検しよう！

取組指標	現状(H27)	中期(R2)	長期(R7)	令和5年度
参加者数	27人	35人	50人	45名

実施内容

クリーンアップひぬまネットワークや霞ヶ浦問題協議会等で開催する各探検隊に参加して河川の環境問題について勉強します。

①涸沼川探検隊

令和5年8月7日（月）小学生26人
涸沼川をもっと身近に感じ、水質浄化意識の高揚を図ることを目的に実施しました。自然公園指導員の指導のもと、水生生物の調査や簡易水質検査（パックテスト）を行いました。



②巴川探検隊

令和5年8月8日（火）小学生10人
令和5年8月23日（水）小学生9人
巴川の源流を探検し、新たな発見や参加者相互のふれあいを通して水質浄化ばかりではなく、魅力ある地域作りにつなげることを目的に実施しました。また、霞ヶ浦周辺の植物や鳥類についても学びました。



〈評価・課題〉

涸沼川探検隊の水質調査場所が、源流域（城里町）と下流域（茨城町）であるため、市内（中流域）での水質調査を行い、上流域から下流域まで一貫した水質の変化や水生生物の調査を実施することにより、より身近な水域で学ぶ機会が得られるよう検討します。

第1章の関連する施策：水辺の保全意識の高揚(P2)、学校等における環境学習の推進(P32)、体験型学習機会の充実(P32)

5-2 市民環境学習促進

〈ねらい〉 子どもから大人までを対象に、身近な環境から地球規模の環境問題まで幅広く環境について、学び体験する機会を提供するとともに、環境に対して関心をもち、主体的に環境保全活動に取り組む意識の醸成を図ります。

〈実施事業〉 環境寺子屋に行こう！

取組指標	現状(H27)	中期(R2)	長期(R7)	令和5年度
開催回数	—	4回	6回	8回

実施内容

地域の環境資源を活用し、講師による市民参加型の「環境寺子屋」を開催します。

①プラスチックリサイクルへの理解を深める

「プラスチックリサイクルについて学ぼう」

令和5年9月19日（火） 岩間第二小学校理科室

令和5年9月20日（水） 友部第二小学校理科室

令和5年9月28日（木） 29日（金） 笠間小学校理科室

講師：一般社団法人プラスチック循環利用協会

内容：【前半】

プラスチックとリサイクルについて学ぶ

【後半】

実験：PETボトル細片から繊維を作る実験

プラスチックとリサイクルについての話を聞いた後、実際にペットボトルの細片からプラスチック繊維を作る実験を行い、プラスチックがリサイクルされる工程を楽しく学ぶことができました。



②地球温暖化防止に関する講演会

「地球温暖化と私たちの未来 ～ゼロカーボンシティの実現に向けて～」

令和5年12月21日（木） 参加者136名

会場：友部公民館 大ホール

講師：三村 信男（みむら のぶお）氏

茨城大学 特命教授・前学長

地球温暖化や気候変動の現状と将来予測、地球温暖化対策の内容と世界の動き、笠間市の取り組みなど、わかりやすく教えていただきました。

地球温暖化を防ぐために個人や企業が今、何をすべきか一緒に考えることができました。



③「第7回笠間市こども理科自由研究プレゼン大会」

令和5年11月12日（日）

参加者：14作品24名、司会：友部小学校6学年 6名、来場者：51名

会場：友部小学校体育館

市内小学生が、夏休みに行う理科自由研究について、多くの人前でプレゼンテーションをする機会を設けることにより、理科や環境への関心を高めるとともに「主体的な取組意欲」や「伝える力」などを育むことを目的として、市民団体（かさま環境を考える会、ごみを考える会）が中心となり、開催しました。子ども達が主役となり楽しく開催することができました。



④「エコクッキング」

令和5年7月2日（日） 参加者29人

会場：地域福祉センターともべ 調理室

ただ調理をして食べるだけではなく、その前後の作業にも大きな意味があることを教えてもらい作業を実施しました。買い物では必要な分量を、また地元産・外国産など食材の産地も確認し、調理は、野菜を皮ごと調理する「エコ班」と、いつもどおり皮をむいて調理する「普通班」に分けて行い、ごみの量を比較しました。

少し意識を変えることで、地産地消やごみの減量化につながることを学びました。



⑤もったいない学会座談会「身近なエネルギーと3Rの今」

令和6年2月4日（日） 参加者38名

会場：友部公民館大会議室（オンラインでも実施）

講師：もったいない学会 大久保氏、松島氏、五十嵐氏

海洋プラスチックごみの現状や原因を教えていただき、将来的には魚の総量を海洋プラスチックごみが上回る予測があることなどを学びました。また生態系の最大能力原理をナマケモノに例え詳しくお話しいただきました。

物を修理しながら使い続ける生活習慣に戻るべきとの意見に皆様大賛成でした。



<評価・課題>

子どもから大人までを対象に、環境について学ぶ機会や発表する機会を提供することができました。

引き続き環境寺子屋について、主体的に環境保全活動に取り組む意識の醸成を図っていきます。

第1章の関連する施策：地球温暖化に対する理解促進(P27)、市民・事業者への環境学習の促進(P32)

5-3 市民環境活動促進

〈ねらい〉 情報提供や活動内容、成果披露の場の提供、実施体制の強化など、市民・事業者が行う環境保全活動に対して支援を行うことで、各主体が環境保全活動を行う環境を整備し、その取組促進を図ります。

〈実施事業〉 笠間市環境サポーター制度の推進

取組指標	現状(R3)	長期(R7)	令和5年度
サポーター登録数	49人	600人	210人

実施内容

SNSを活用した環境サポーター制度を推進するために、市の環境情報を積極的に発信し、賛同する市民に、環境サポーターとして登録（フォロー）をしてもらい、イベントや市民団体等の活動に参加しやすい環境をつくることで、市の環境保全活動の活性化を図ります。

さらに、環境サポーターの活動を共有（シェア）することで市民の環境意識の向上を促します。

- 令和3年8月24日に環境推進部SNSを開設し、市のさまざまな環境情報を発信するとともに、市の広報担当と記事内容を共有しながら、広報活動に努めました。また、環境サポーターの登録を促進するために、環境教育学習やイベント等において参加者へチラシを配付しました。

記事投稿件数：110件

市広報等との共有件数：14件

〈評価・課題〉

SNSも有効な広報手段として、市に関わる環境情報だけでなく、市民のためになるような情報も発信しました。引き続き幅広い情報をスピーディーに発信できるよう活用を促進を図ります。

第1章の関連する施策：地域コミュニティ活動の促進(P34)、市民・事業者の環境保全活動への支援(P34)